

熱中症に備えよう



こんにちは
保健師です

熱中症は、暑さなどにより体温の調整ができなくなる病気です。以前は、涼しい道東で熱中症が大きく取り上げられるることは余りありませんでしたが、ここ数年、夏には気温の高い日が続き、私たちにも身近なこととして感じられるようになりました。熱中症を予防して、元気な夏を過ごしましょう。

熱中症とは

高温多湿な環境下で、体内の水分や塩分のバランスが崩れたり、体温調整機能がうまく働かないために、体内に熱がたまり、筋肉痛や大量の発汗、さらには吐き気やだるなどの症状が現れ、重症になると意識障害などが起こります。気温が高い、湿度が高いなどの環境条件と、体調がよくないなどの個人の体調による影響とが組み合わざって、熱中症の発症が高まります。屋外で活動しているときだけではなく、室内で熱中症を発症することもあります。

熱中症にならない暮らしの知恵

例年、急激に気温が上がりその年初めて28度を超えた日に、熱中症が多く起こっています。という報告があります。

①こまめに水分と塩分を補給
暑い環境で体温を下げるためには、汗が皮膚の表面で蒸発してからだの熱を発散させることができます。汗をかくことが大切です。汗は血液中の水分や塩分です。失われた分を補給するため、のどの渇きを感じなくともこまめに水分や塩分を補給しましょう。

②服装の工夫

綿や麻などの素材は風通しがよく、汗が乾きやすいので夏には最適です。また、近年開発されている吸汗・速乾素材もお勧めです。朝涼しいと

ど、待ちに待ったシーズン到来で屋外で過ごす時間も長くなる季節です。北海道の夏は短いと言われますが、予防法を知って元気に過ごしたいものです。

熱中症が疑われるときは

①こまめに水分と塩分を補給
暑い環境で体温を下げるためには、汗が皮膚の表面で蒸発してからだの熱を発散させることができます。汗をかくことが大切です。汗は血液中の水分や塩分です。失われた分を補給するため、のどの渇きを感じなくともこまめに水分や塩分を補給しましょう。

②室内の工夫
カーテンで強い日差しをさえぎったり、窓を開けて風通しを良くするなど暑さをやわらげる対策をとりましょう。また、うちわや扇風機を活用し、体感温度を下げましょう。

③室内の工夫
傘や帽子で直射日光をさえぎることも効果があります。気温にあわせて着脱できるものを選びましょう。また、日

思つても、日中には急激に気温が上がる場合もあります。傘や帽子で直射日光をさえぎることも効果があります。

熱中症が疑われるときは……

おもな症状

- ★めまい・失神
- ★筋肉痛・筋肉の硬直
- ★大量の発汗・高体温
- ★頭痛・気分の不快感・倦怠感・嘔吐
- ★意識障害・けいれん・手足の運動障害

意識がない場合の対応

- 意識がもうろうとしている、呼びかけに反応しない場合はすぐに救急車を呼び医療機関へ！



意識がある場合の対応

- 涼しい場所へ避難する。
- 衣服をゆるめ、体を冷やす。
- 水分・塩分を補給する。



「商品の安全性に関する相談」
「化粧品でかぶれた」など、
「電気あんかが発火した」など、

契約に関する相談と、商品の安全性に関する相談の場合では、準備するものが異なります。それについて主なものを挙げます。

契約に関する相談と、商品の安全性に関する相談の場合では、準備するものが異なります。

相談するのに必要なものはありますか？

生活豆知識 消費生活センターとは？



(2)

商品の安全性に関する相談の場合、商品自体の情報（商品名や製造者名、型番など）、損害の程度（医者にかかる場合は診断書や領収証）が必要です。保証書や取扱説明書があればそろえてください。事故品は保存し、できるだけ被害状況を写真やビデオに記録してください。

消費生活センターは電話での相談が中心です。直接来所されてもかまいませんが、事前に電話でお問い合わせをいきただくと、必要な書類の確認ができます。効率よく相談が受けられます。なお、こうした書類がなくても相談は可能ですので、まずは気軽に相談してください。

認知症や病気などで本人が相談することが困難な場合は、家族や周囲の方はできるだけ詳しく状況を把握してから相談してください。

ことが原則です。

相談する人が困難な場合

は、家族や周囲の方はできる

だけ詳しく状況を把握してから相談してください。

て、「解約したい」「返品した

い」などの意向を確認するた

めにも、本人が直接相談する

ことが原則です。

認知症や病気などで本人が

相談することが困難な場合

は、家族や周囲の方はできる